

日本科学未来館イベント「こどもからみる不思議世界探求」
にご参加いただいた皆様へ

2025 年 8 月 18 日-19 日に上記イベントにご参加いただき、誠にありがとうございました。多くのお子さんとその保護者の方に参加協力いただき、大変貴重なデータを得ることができました。心より感謝いたします。

ここでは鶴見の担当した「身体は注意をひきつける？」というテーマの実験結果について、基礎的なデータ解析が終わりましたので、参加された皆様全体の傾向について報告します。

研究実施者：鶴見周摩(北海道大学)

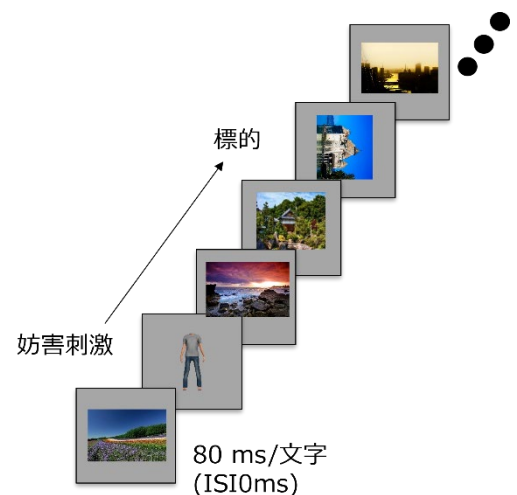
E-mail : stsurumi@let.hokudai.ac.jp

研究統括者：山口真美(中央大学)

研究概要

ヒトがいるとそこに意識していなくても目を向けてしまいます。これはヒトが注意を捕捉する存在であることを意味しており、我々はヒトの身体が現れるとそこに注意が向いてしまうことが報告されています(Cass, Giltrap, & Talbot, 2020)。最近の研究から、子どもでも身体の情報(体重)に注意が捕捉されることがわかりましたが(Tsurumi et al., 2025)、身体画像そのものが注意を捕捉するかはまだ明らかになっていません。

身体画像に注意が捕捉されるかを調べるために右図で示した課題を実施させていただきました。具体的には、画面中央に短い時間で連続的に呈示される風景画像の中から一つだけ右か左に傾いてる画像が現れるので、それがどちらに傾いていたかを回答していただきました。この傾き画像を標的と言い、その標的が呈示される 0.2 秒前、あるいは 0.8 秒前に、身体モデル画像が呈示されます。これまでの研究から、注意を引きつける情報(例えば顔写真や怖い画像)が標的の直前(0.2 秒~0.5 秒の間)に出ると標的が何であったのかわからなくなってしまうことがわかっています。一方で、十分な時間が空いているとき(0.6 秒以上)には、標的を正確に回答できます。



結果

まず、大人と子どもで標的の正答率に差がみられ、おとなの方が簡単な課題だったと考えられます。また、全体を通して痩身気味の身体が出た時の正答率が少し下がったことから、肥満気味よりも痩身の方が注意をひきつけたのかもしれませんが。身体の変化が著しい小学生や中学生の性別、年齢を細かく分析していくことで身体による注意捕捉効果がみられる可能性があり、さらなる研究が必要になると考えて

います。

